

# LMcorsa Race Report

## Super GT 2018 Rd,3 Suzuka GT



● H.YOSHIMOTO  
● R.MIYATA



● M.NITTA  
● Y.NAKAYAMA

5月20日 | 天候:晴れ | コース:鈴鹿国際サーキット | 路面:ドライ



● H.YOSHIMOTO  
● R.MIYATA

### Final Day Summary

5番手からスタートしたSYNTIUM LMcorsa RC F GT3は序盤で4番手を走行したものの、セーフティカーの導入が不利に働きポジションキープの5位でチェッカーを受ける。

### Final Day

開催時期が8月から5月に変更されるとともにレース距離が短縮された2018 AUTOBACS SUPER GT 第3戦「SUZUKA GT 300km Fan Festival」の決勝レースが5月20日(日)に開催された。

SYNTIUM LMcorsa RC F GT3は、19日(土)に実施された公式練習で2番手タイムをマークし、予選Q1を吉本大樹選手が突破。予選Q2で宮田莉朋選手が5位を獲得したことにより、決勝レースでの飛躍が期待できるグリッドからのスタートとなった。



予選日から一夜明けて、20日は早朝から晴れ渡るとともに前日の強風も収まり、絶好のレース観戦日となる。午前中にはピットウォークと実施され、13時5分から予定されていたウォームアップ走行を待った。しかし、鈴鹿サーキットのシステム故障が発生したためウォームアップ走行が40分の遅れで進行し、13時45分から20分間に掛けて実行される。

SYNTIUM LMcorsa RC F GT3にはスタートドライバーを務める吉本選手が乗り込み6周を走行。短い時間ながらも宮田選手も最終チェックを行ない20分間のウォームアップ走行が終了した。

## Final Day

決勝のスタート時間もウォームアップ走行の遅れによって40分のディレイとなり、15時20分にパレードラップがスタート。

5番手からスタートしたSYNTIUM LMcorsa RC F GT3を駆る吉本選手は、1周目で早くも1台をパスして4番手に浮上する。2周目以降も2分00秒台のラップタイムで走行し、先行車をパッシングするには至らないが、後続のライバル勢にはリードを築いていく。

10周目になると、3番手の61号車BRZを4秒の差で追っていて、5番手の7号車ポルシェには7秒のギャップを作っていた。しかし、12周目にGT500のマシンがクラッシュしたことによりセーフティカーが導入されて、レースは振り出しに戻ってしまう。18周目にリスタートするが、タイヤのパフォーマンスが低下したSYNTIUM LMcorsa RC F GT3は、20周目に21号車のアウディR8 LMSに交わされてしまう。そこで、23周目にピットインを行ない宮田選手にドライバーチェンジするとともにタイヤ交換と給油を行なう。

まだ1回目のピットインを終えていないマシンもいたため、コースに復帰したときのポジションは



14番手となる。宮田選手は2分1秒から2秒台のラップタイムで走行を続けるが、全車がピットインを終えた33周目には7番手となっていた。吉本選手が担当した第1スティントよりも順位を落とした理由としては、タイヤ無交換でピット作業時間を短縮したマシンがいたためになる。タイヤ無交換のマシンは、終盤のラップタイムが落ちてくる可能性があるため宮田選手は、全ラップでプッシュを続ける。しかし、ピットアウト後から88号車のランボルギーニと競り合うこと

になり、なかなか順位を上げることができずにいた。それでも43周目には先行していた18号車の86 MCを、47周目には0号車のAMG GTをパスして5番手に浮上。最後まで88号車へのチャレンジを続けたが、パッシングはできずに49周目に5位でチェッカーを受けた。

前戦の富士スピードウェイラウンドから2戦連続でポイントを獲得したLM corsaだが、チームの目標はあくまでもポディウムの頂点。そのためには、まだまだマシンの速さが足りないとのことで、次戦のタイラウンドまでにベースアップを図ることになる。



## Team Comment



Director : 飯田 章

練習走行や予選の結果からすると、決勝レースはもう少し上位争いができると思っていましたが、ライバル勢の実力が上回っていました。最後は5位まで浮上できましたが、パスしたというよりは、先行車のタイヤが厳しくなったことが要因です。2戦連続でポイントが獲得できたのは良かったです。レースとしてはフラストレーションが溜まりました。マシン自体の実力はあるので、結果に繋がっていないのが悔しいですね。次戦のタイヤは相性の良いコースなので、問題点を探って好結果を狙っていきます。



Driver : 吉本 大樹

ドライバーもピットワークもミスなくチームは最善の仕事をしてくれました。なので、悔しいですが5位がベストな結果だと思います。私が担当した第一スティントは、トップ3に離されてしまって苦しい展開でした。タイヤをセーブしつつ順位をキープしていたのですが、セーフティカーが入ってギャップが消えました。セーフティカーのタイミングは運もありますが、今回は不利に働きました。ただ、セーフティカーが入らなかったとしても5位以上になれたかは分からないので、まだまだ実力を付ける必要があります。現状では、解決策が見えていないので、今回のデータをしっかりと見直して次戦のタイヤラウンドに臨みたいと思います。



Driver : 宮田 莉朋

練習走行や予選の結果からすれば表彰台の登れるチャンスがあると感じていましたが、決勝レースはマシンの課題が浮き彫りになって悔しい気持ちです。具体的には、私が担当した第2スティントで、88号車のランボルギーニを抜ききれなかったことです。SYNTIUM LMcorsa RC F GT3は、速いセクターと遅いセクターがはっきりしているので、平均して速さを身につける必要があると感じています。それでもラップタイムは安定していたので、マシンのセットアップは徐々に進化していると思います。結果としては、これまでの決勝レースでポジションを落としていたところ、今回は5番手からスタートして5位フィニッシュなので良かったとも言えます。



● **H.YOSHIMOTO**

● **R.MIYATA**



96



● M.NITTA

● Y.NAKAYAMA

## Final Day Summary

ポールポジションスタートのK-tunes Racing LM corsaは  
チーム、ドライバーともに完璧なレースを行ない  
参戦3戦目にしてポールトゥウィンで初優勝を飾る!!

## Final Day

開催時期が8月から5月に変更されるとともにレース  
距離が短縮された2018 AUTOBACS SUPER GT 第  
3戦「SUZUKA GT 300km Fan Festival」の決勝レー  
スが5月20日(日)に開催された。

19日に行なわれた予選では、K-tunes RC F GT3  
を駆る中山雄一選手が従来のレコードタイムを約2秒  
更新するスーパーラップによってポールポジションを  
獲得。K-tunes Racing LM corsaは今シーズンより  
エントリーを開始したため、3戦目で早くもグリッド  
の最上位を獲得する目覚ましい活躍をみせ、RC F GT3にとっても初のポールポジションをもたら  
す、記録づくめの予選となった。



予選日から一夜明けて、20日は早朝から晴れ渡るとともに前日の強風も収まり、絶好のレース観  
戦日となる。午前中にはピットウォークと実施され、13時5分から予定されていたウォームアップ  
走行を待った。しかし、鈴鹿サーキットのシステム故障が発生したためウォームアップ走行が40分  
の遅れで進行し、13時45分から20分間に掛けて実行された。

K-tunes RC F GT3にはスタートドライバーを務める新田守男選手が乗り込み6周を走行し、マ  
シンとコースコンディションを確認。中山選手も2周を周回して、ウォームアップ走行は終了した。  
決勝のスタート時間もウォームアップ走行の遅れによって40分のディレイとなり、15時20分にパレード  
ラップがスタートした。新田選手がスタートドライバーとなったK-tunes RC F GT3は、冷静な走り出しで  
1周目から後続を引き離しにかかる。

## Final Day

2周目にはファステストラップも記録し、周回ごとにギャップを築き、5周目には2番手に3秒以上の差を付けることに成功。10周目にはその差を6秒に拡大したが、12周目にGT500マシンがクラッシュしたことによりセーフティカーが導入されて、築いてきたリードが帳消しとなってしまふ。レースは18周目にリスタートし、再び緊迫した状況が始まった。リスタート後こそ0号車のAMG GT3に迫られるが新田選手もプッシュを続け、2秒程度のリードを保ったまま24周目にピットイン。メカニックは冷静に4本のタイヤ交換と給油を行ない、中山選手が乗り込んだK-tunes RC F GT3をコースに送り出す。

しかし、コースに復帰するとすでにタイヤ無交換でピットストップを終えていた18号車の86MCに先行を許していた。そして序盤から2番手を走行していた0号車のAMG GT3が31周目にピットインを実施してコースに復帰すると18号車の前に出てトップを走行。33周目に全車が1回目のピットインを終えると、K-tunes RC F GT3は3番手で0号車と18号車を追うことになった。高速コーナーが得意なK-tunes RC F GT3は、バックストレートから130Rがライバル勢より優れていたため、中山選手は35周目の130Rを過ぎたシケインで18号車にアウト側からパッシングを仕掛ける。ハードブレーキングになったが、中山選手はマシンを上手くコントロールして見事に2番手に浮上する。レースのハイライトとなったのは37周目で、トップを走る0号車を2周前の再現かのようにシケインでパスしトップを奪取。トップに立った中山選手は、本来のペースで周回を重ねることが可能となり、5周で12秒の差を作った。終盤は独走態勢に入り、後続とのリードを保ったまま49周目に見事にトップチェッカーを受けて、ポールトゥウィンを達成。

今シーズンから参戦することとなったK-tunes Racing LM corsaは、3戦目で早くも優勝を飾ることとなり、しかもレコードタイムを樹立するポールポジション、ファステストラップ、優勝と完璧な週末となった。



## Team Comment

---



Director : 影山 正彦

開幕戦と第2戦は本来のパフォーマンスが見せられずポイントを獲得できていなかった  
ので、優勝という最高の結果が出せてホッとしています。2戦連続でポイントを獲得で  
きませんでしたが、チームの雰囲気は良く常に全力で挑んでいるので、いずれ結果は付  
いてくると思っていましたが、3戦目で優勝というのは嬉しい誤算ですね。レースは、  
新田選手が全ラップでプッシュしてくれて、タイヤのマネージメントも完璧でした。ピッ  
トストップを終えて3番手となったときには、このままの順位で終わるのかとも思いま  
したが、中山選手が素晴らしい仕事をしてくれました。今シーズンから参戦したチーム  
ですが、実力も付いてきているので、今後のレースも上位争いをしていきたいです。



Driver : 新田 守男

K-tunes RC F GT3 でトップ争いをするライバル勢と走ることがなかったので、ス  
タート後は慎重になりました。ただ、周回ごとにマージンが築けたので好感触を得てい  
ました。しかし、セーフティカーが入ってリードがなくなったときには、がっかりしま  
したね。それでも気持ちを切り替えて再開後にはプッシュして、中山選手にバトンを繋  
ぎました。勝てる展開だと思っていたので、自分の役割をしっかりと果たせて良かった  
です。今回の鈴鹿サーキットラウンドでは、チームが作ってきたマシンも完璧でしたし、  
ブリヂストンタイヤも状況に合っていました。優勝は、関係者のみんなが努力した結果  
なので、とても嬉しく想っています。



Driver : 中山 雄一

新田選手がスタートを務めて後半のスティントに乗ったのですが、ピットアウトしたと  
きに18号車との差が想像以上に開いていたので後半勝負になると思っていました。し  
かし、0号車が押さえてくれたことで、2台をすぐにキャッチアップできたのが良かった  
です。K-tunes RC F GT3 は、高速コーナーが速かったので、130R からシケイン  
が勝負どころだと思っていました。パッシングポイントの少ない鈴鹿サーキットで、2  
台を同じ所でパスできたのは、その優位性のお陰です。チームは、参戦からまだ3戦目  
ですが、着実にレベルアップしていることを感じています。このチームならばシリーズ  
中盤戦以降も楽しみです。

**96**



**ktunes**  
RACING

 **M.NITTA**

 **Y.NAKAYAMA**